

湖陵同窓会の発展を!

湖陵同窓会副会長 本間 秀一

さまざまな交友関係がある。小学校、いや幼稚園から大学まで、夫々の段階で、夫々の交友関係が生まれる。更に、職場、趣味、サークル、その上、研究機関とか、主義主張などの同志的結合などを加えれば、人生はまさに綾なす織物の如く、タテ糸、ヨコ糸の交友関係に満ち溢れている。さて、我々、湖陵出身者の立場から見れば、綾なす交友関係の主軸は、何といっても同期会であり、同窓会であろう。

「日出づる國の北粹に」ではないが、北辺のきびしい自然条件の中で培った友情は、都会育ちの人のそれよりも、絆が強いからあらかは別として、東京やら札幌やら、全国各地から同期会便りが聞こえてくる。社会的地位の高い人、事業で成功した人、努力中の人、フツツの人、立場こそ違え、昔の仲間たちが月日のハンディキャップを超えて語り合う、しかもかつての自分たちの言葉で語り合う、このほほえましさは大事だ。年を経る毎に、故郷を遠く離れば離れるほど懐かしさは増幅し、身近に共通の過去を持つ理解者を求める。更には、友人に成功者がいればこれを讀え、先輩、後輩にそういう人がいれば、それを話題にし、わが

事のように誇らしい気分になる。同期生、同窓生が互いに理解者たり得る原点は、まさにここにあると言えるのではないだろうか。「文化は地方で生産され、都会で消費される」と、かつて言った人がいる。たしかに、文化のみならず、学術も情報も、金も遊びも、都会の一極に集中している。しかし、もとはと言えば、洗練さの衣こそまといはれないが、それらは地方で生産され、地方人のエネルギーが創り上げたものではなかつたらうか。今、地方の時代と言われ、テレビ等の媒体機関は情報を地方に逆流し、生産施設、学術・研究機関は、続々地方に大移動を始めた。文化は地方で生産され、地方で消費される時代に突入した。地方の時代から、地方競争の時代に突入した。

現在、湖陵出身者は、数多くこの地方に根づいて、地方競争時代を激しく生きようとしている。今こそ地域のリーダーとしての再確認をすべき時かもしれない。年に一度の同窓会は旧交を温めるだけでなく、リーダーとしての自覚を再確認する良い機会ではないでしょうか!

湖陵同窓会の増々の発展を祈念して。

愛惜やまぬ我が母校に、第二十二代校長として奉職することとなり、その榮譽に大いなる喜びを感じると共に、職責の重さに身のひきしまる思いを感じております。昭和二十一年、満州チチハル市より引き揚げて来て鈞路中学に偏入しました。併置中学校第一回生(湖陵三期生)となります。



新校舎へむけて新たな発展を

校長 森 正徳

予定では七月中旬に着工、平成二年八月末に校舎、体育館完成、平成三年中に外構工事完了というハイペースで工事が進捗することになっております。平成三年の秋には、落成記念並びに八十周年記念式典が盛大に挙行される運びになるかとも思います。同窓生の皆様のご支援なしには何一つ円滑に運営できぬことばかりです。皆様の母校に寄せられます熱きご厚情とお力添えを切にお願いするところでありませぬ。

歴史は新しきものを古きものに変えます。最近の殺伐とした世相の中、若者の残酷な犯行をきく度に胸が痛みます。私は全校生徒に「他人の傷みを知る人間たれ」と呼びかけております。他人の生命をこよなく慈しむところから、新しい湖陵高校の魂も生まれて来るものと信じております。

同窓生の一員として、母校に寄せられる皆様の愛情に深く感銘の意を表すると共に、湖陵会の限りなき発展を祈念してやみませぬ。

深く敬意と感謝の意を表する次第

深く敬意と感謝の意を表する次第

深く敬意と感謝の意を表する次第

各地同期会近況報告

同期会花ざかり

東京だより

鋼中七期

永井

保

四十六年五月に、在京の有志が集ってはじめて在京鋼中会は、ことし五月で十八年たった。平成三年には二十年に生長する。現在会員は次のようである。

鋼中卒	人員
1 期	1 人
2 期	5 人
3 期	1 人
4 期	2 人
7 期	6 人
8 期	1 人
9 期	1 人
10 期	1 人
13 期	1 人
	計 22

春秋二回集って欲談しているほか、「回想と躍進」と副題をつけた文集「在京鋼中会誌」を配布しているが、五月で十八号をかぞえ、平成二年五月には二十号になる。八十才台の人たちの文集として、毎回原稿用紙一〇〇枚をこえるものを発行しているのは、ちよつと

第35回在京鋼中会



竹ヶ原輔之夫 河村功 波岡正治
松原俊雄 永井保 竹林信夫
加藤晃 尾崎定雄 原清剛 土田一雄

珍らしいことと思っている。

俳句の同人は六人であるが、八期の河村 功様のお骨折で、毎月互選と選句短評をやっている。すでに四六回をかぞえた。十一月は五十回になる。平成元年一月からの兼題と、互選点の多かったものを披露すると次のようになる。

回数	兼題	作句
40	1 初場所	初場所の供華の哀しき御座所かな
41	2 風花	最上川風花舞ふや遊覧船
42	3 春雷	春雷や遠のく後の仰ぐ月
43	4 花曇	こもり居のひねもすねむき花曇
44	5 南風	黒南風や網をつくるふ漁師たち

湖陵同窓会の東京支部をつくらうじゃないか、という動きがはじまり、湖陵四期の沢山右尚様を中心に、すでに、世話人会も二回開かれ、態勢をととのえて、平成二年春をめざして活発に動きだした。卒業はしたけれど「母校とは何だっけ」といったこともなくなるでしょうし、人と人とのふれあい、つながりがたのしまれることになりましょう。また、生きていくことのアかしとなることでしょう。一〜四期にご卒業になられた大先輩が、おられることも、たいへん珍しいことと思います。ぜひ、ひとときもはやく東京支部が、生れますよう念願しています。



「さっぼろ」より

札幌湖陵会会長 西條 正人

おかげさまでさっぼろ湖陵会を旗あげしてから、三年目の総会を無事終了いたしました。

かつての熊笹会から脱皮して、今の時代にふさわしいコミニケーションの場をつくりたいと考え、これに同調した多くの方々の努力によって、極めて短い時間で体制が出来たように思われます。

しかし同窓会の難しさは、形が出来るとともに始つていきます。お互いに年々トシをとっていくことと、社会的経済的立場の変化や馴れなどもありますが、なんといつても同窓会の目的そのものの難しさにあると言えましょう。

私は会社の経営理念と同じように、同窓会についても、規模の大ききよりは、常にエクセレントであつて欲しいと思つております。

同窓会でハチマキをし、肩を組んで応援歌を叫ぶのもよいものです。私が大阪にいたとき、関西エルム会の幹事役として全国寮歌祭などに、大先輩のお供をしましたが、日本を代表する有名人が破帽と下駄を打ちならして、子供のようハシヤイでいたのが思い出されます。青春は、サムエル・ウルマンの詩のとおり、心の様相であつて年を重ねただけで人は老えないし、

情熱がある限り青春は生きていくと考えます。

しかし、同窓会に参加する人々には、必ずしもそうでない人が大勢います。一部の人間がハシヤイで満足するのは間違ひであつて、同窓会は心の故郷を求めて、先輩後輩がふれ合う貴重な一刻であるからだ。私はこうした考え方も賛成であります。

色々考えますと、なんといつても鋼路のご本家とより一層交流を重ね、よりよいものとするのがポイントになります。ご支援をお願いします。

(鋼中二十六期)



平成元年度 札幌湖陵会定期総会



私を鍛えてくれた剣道場

湖陵十五期 藤原 富美彦

先日、本当に久しぶりに湖陵の剣道場を訪れた。しばらく竹刀を握っていないので、何となく入りづらい。突然の先輩の到来に、現役の部員たちが緊張の面もちで迎えてくれる。昔と変わらない光景であった。在学中の三年間、毎日通いつめた道場である。入るまでの逡巡は、一歩足を踏み入れると消えてしまった。

男沢先生にしがかれ、したたる汗が染み込んだ床板。先輩との組み合いで血がねりこまれた壁板。汗くさい部屋。すべてが懐しい。

この道場のおかげで、在学中の三年間は、釧根地区の代表として全道大会出場という輝かしい思い出を作らせてもらった。特に三年生の時は、主将という重責を荷つての各種大会参加であつただけに、その思い出も強烈であるが、当時のつらさ、苦しさも、今となつては楽しい思い出である。

そんな中にあつて、剣道部存続の危機をはらむような二つの事件も記憶に残っている。

一つは、一年生の時、剣道場が市内の高校の番長会議場として使われたことであつた。神聖な筈の道場が、土足で踏みじられたこ

とへの憤りと、部員の関与の疑いによる部への処分が噂となり、かなり心配したことを覚えてる。

もう一つは、二年生の夏休みに、中央大学の現役選手である、矢野さん、石原さんを迎えて、一週間程強化練習を行った時最後の日に、先輩達にも参加してもらつてお礼のパーティーを開いた。先輩達はアルコールに、我々はジュースと雰囲気は酔い、かなりのドンチアン騒ぎとなつた。酒席に高校生が同席したとこと、無許可で行われたという事で、職員会議でかなりの問題となつたらしい。

いずれの件も、どういう訳か、おとがめなしという判定で決着。古き良き時代のできごととはなつている。

私にとって、高校生活のすべてとも言える剣道場が、あと一年余で無くなるうとして。湖陵の移転新築という喜ばしいできごとの中にあつて、何となく寂しい思いをもつのは、古い者の感傷であらうか。願わくば、器が新しくなつても、湖陵魂だけは、そのまま受け継いで欲しいと願っている。

わが青春は...



思い出の湖陵

湖陵二十五期 鈴木 順子

同じ机に隣り合わせた、かけがえない友と出会つた入学式：ギターに夢になつてよく弾いたつけ：

バレエボールも休み時間によくやつた：暑かつた夏のキャンプの強い印象：千代の浦海岸へ行く時は何時もドキドキして：

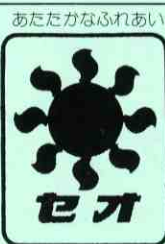
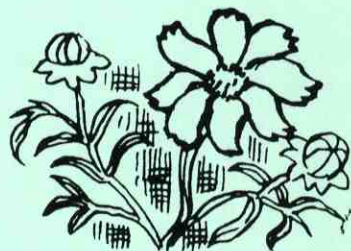
私は教室に面した中庭をポーツと眺めるのが好きで、そこで練り広げられていた青春模様を感じる事が好きでした：

輪になつて詩を読んでいる少女達が、何時の間にか皆泣き出してしまつている：薄暗い教室よりそれは、まるで自分とはかけ離れた世界の様に見えた：

一生懸命作つた行燈が二位になつた時は嬉しかった：回り燈籠のあの美しさは、ファイヤーストームの炎と共に何年過ぎても忘れる事はない：そしてその事が、後の東京時代の自分に繋がつていったのです。

あの一生懸命の時を共有する仲間との触れ合いこそが、実は自分のいちばん欲しかった事だつたのだと。そして本当は何時もある事に飢えていたであろう自分は、急に目覚めた様に、「一生懸命」に夢中になつていったのです。

それが現在に続き：つづいてゆくのだろう：| 高校時代 | 誰もが持ち得た多感なあの時期の、セピア色の記憶をゆつくりと思い起こすと、追われるままの日々の中、それは何と鮮やかに見えて来る事か！



太陽のように
明るく暖かい真心で
良い品をより安く
ご奉仕する

セオチェーン

- 妹尾商店 新橋大通1丁目 ☎25-5345
- 新富士ストア 新富士駅前 ☎51-3467
- 愛国ストア 愛国西3丁目 ☎36-3399
- 白樺ストア 白樺台1丁目 ☎91-5423
- 昭園ストア 昭和北1丁目 ☎51-8853

さつぽろ地下街オーロラタウン
ギフトブティック

ペルソナ

オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味が自慢の本格派レストラン●
ステーキハウス アポロン

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023
営業時間/AM11:00~PM9:00

青春譜・湖陵ヶ丘

《20》



釧中32期 奥田達也

釧中第二スト

燃えた時、それが青春だ。それは又、失敗の時でもある。

事件からもう四十四年経った。ストを起こした首謀者たちにと

で一日だけ 不満、で学校スト起こる 先輩に仲裁を頼む

戦時下、中学教師はいやおうなく軍部の手先になって教育指導をした。軍国主義一辺倒の時代である。第一スト時の教頭だった大根田資雄が八代目校長としてあり、軍関係に応募することを強要した。だが敗戦となって、アメリカ占領下におかれるや自由主義、民主教育を唱えはじめた。「予科練にはいり、命を捧げるのが愛国心のあらわれである」といった校長が一変して「学校への寄付金は愛校心のバロメーターである」と朝礼でいうようになった。そのひょう変ぶりは見事なまでで、若く純粋な生徒の不信感を招いた。

戦時の教員不足から、小学校の教員が格上げされ、中学教員養成所を経て、各中学校に配置された。釧中にもその数名が教壇に立つ。敗戦後数ヶ月の間、全国各地で「教育環境の不満」を理由にストライキがおこなわれた。その情報を伝え聞くにおよんで最上級生の責任感が、三十回生の時の流行に遅れてはならない、と考えさせる。釧中で唯一の五学級入学も四学級に編成がえされていた当時の級長らを首謀者とし、副級長らと運動部員らを協力リーダーとして、計画を練らせた。

四年生のなかには、大学受験に準備中の者もいる。進学に差し支える、と反対する者も出た。ストの首謀者、リーダーのなかに、長期間、最後まで全員をリードしていくことに不安を抱く者もいる。スト決行の前夜、リーダー十名は、深夜にもかかわらず南大通六丁目の浜野宅を訪れ「スト決行の可否」を相談する。

「ストをやるためのストでは駄目だ。そのようなストライキなら止め方がいい。ストをやるには、それなりの確固たる理由と正義がなければならぬ」と浜野幸四郎は諭す。当然すぎる言葉だが、血気にはやる若人の「行くところまで行かねばおさまらない」氣勢を浜野はおさえきれない。追放を名指される教諭たちは浜野の同僚。

いまだ軍国調そのままのI先生、漫才師まがいに授業をやるK、講義の内容が不明のM、T、S先生ら。とても「こんな先生らに教えられているのは我慢できない。戦争で勉強できなかった分も取り戻さなければならぬ」とき、勉強再建の前途を考えれば、こんな教師に教えられるわれわれ、また後輩が可哀そうだし、たまらない」と大義名分をいい立てるリーダー達。

浜野の説諭も彼らには聞かれぬ。「生徒を頭ごなしに決めつける大

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

中村 隆(釧中27期)

れんが屋★AM11:00～PM11:00

トロイカ★AM 8:00～PM11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811

教師の追放

全国各地に「教育環境の
建白書いれられず

十月のスト突入の朝、全生徒は登校時、学校へ行かないで運動神社ほかに集まった。橋南西部の八分団は郵便局の本局前に集合する。汽車通学生も新富士駅やそれぞれ各所でおろされる。

首謀者の級長四名は「今回のストの責任はあくまで自分ら四名で負うことを覚悟」し、建白書をもって校長室に大根田校長とあう。

「軍国主義を鼓舞してきながら戦後に民主主義を唱える無責任さ。校長の独裁性。質の悪い八教師を追放して優秀な教諭をいれるべきだ」といった内容の建白書である。

だが、彼らが退学、停学を覚悟でストをしてまでの強硬な訴えも、校長の容れるところとはならない。校長室を辞した首謀者らは、リーダーとはかり、浜野宅を訪れる。

次の方がわからない。ただ、なんとしても全生徒を引っ張って、要望事項の貫徹まで頑張らなければならぬ。

「浜野先生がリーダーになって下さい」と頼む。

この会合に名倉混も同席した。「浜野先生にリーダーをお願いすることは出来ない。先生には解決を一任することだ」と事態を冷静にみて名倉はいう。首謀者らはその方法に納得できない。

若者の純粹さは大人に不信感を

もっている。釧中教師の浜野が、自分の立場を良くするために、生徒らを利用するのではないか、とまで危惧するのだった。

名倉の説得はつづき、仲裁は懸命となる。このままでは泥沼におちいり、生徒たちはつぎの方法もなく、孤立してしまう。

「事態の收拾もしなければならぬ」と名倉はいう。

「名倉先輩を信頼します。仲裁かたを一任します」とリーダーは働きながら名倉に深く頭を垂れた。

混乱した時代のやり場のない気持ちから決行したストだが「自分たちの力では、もうこれ以上リードしていくことは出来ない。全生徒をあてのない流れ舟に乗せておくことはいけない」と木内清治、石黒幹雄らは思った。

トップリーダー四人は、なお説得に反対する。「最後までストをやり抜き、要望を通すべきだ」と。

翌日、名倉と相談した浜野は、校長に仲裁者としての意見を申しのべた。

「生徒に処分者、犠牲者を出さないこと」を第一条件とし、生徒の建白者の事項を容認してもらおうべく、である。

大根田校長はノラリクラリと、なかなか態度を表明しないが、自分自身、生徒を戦へ駆り立て、

戦後ひょう変して民主主義を唱えている弱味もある。上手に收拾しなければ、思いがけない傷の出ることもある。

「要望についてできる限りの努力はしよう。スト解決へ進めることは浜野先生に一任する」と校長は回答した。

その報告にリーダーらは、四年生を剣道場、三年生以下を柔道場に全員集合する。仲裁の浜野先生、名倉混らはいう。

「この混乱した世相のなか、教師もこれを職業とし、生活している。教師を追放することは、その生活を奪うことになるのだ。それは重大な問題である。君ら少年でも、そのことは良く考えてみればわかることだ」

その説論に、無能教師を排除すべき、と考えていた四年生らは納得した。

だが、スト決行に盲従させられ、いま一日でスト中止をいわれた三年生らに不満は残った。

ストの意義を理解できない年齢であり、相談はされないが、一応賛同したのに「急ぎよ中止」では納得できない。

上級生の勝手に内心反発を感じた。これが、つぎに応援団への不参加などであらわれてくるのである。」

御卒業・御入学の喜びを1枚の写真に……

湖陵・江南・北陽・星園・短大高校他

市内小中学校卒業アルバム専属作成

株式会社

工藤写真館

工藤寿男(釧中26期)

釧路市南大通5-3-7 TEL 41-5751

駐車場(20台収容)完備

同窓会総会 当番期紹介

「流転の三年間なればこそこの団結」

湖陵七期 清水美喜雄

昭和二十七年旧制釧路路中学の風格を有した旧校舍に入学した我々七期生は、翌二十八年二月校舎焼失の悲運にあい、現教育大学、旧江南高校の校舎を転々としたあと、現東中の裏手、春採湖を見下す一角に安本軍団卒いる二年生だけの自由な、そして活気のある青春の一年間を過ごし、三年生になって現校舎に戻り卒業式を迎えた流転の三年間であったが、その結果としてすばらしい団結と友情の絆に結ばれた同期の会でもある。

当時の牧野校長以下諸先生の情熱を傾けた教育を受け、数多くの人材を輩出した七期生でありますが、毎年八月第二土曜日同期会を開催し、本年は第十六回を数えるに至りました。さらには十月札幌同期会、十一月東京同期会が毎年開催され同期の友情を温ためているところです。二十五周年記念同期会では同期生の募金により立派な同期の旗を作成し、昭和六十年卒業三十年記念同期会は全国から二百余名が集合、釧路の地で一泊しすぎ青春の刻を語り合い、当時の恩師六名が参加して下さいました。記念事業として三十周年行

念誌「湖陵が丘に風ありて」を発行し、お世話になった地域社会へのお礼として釧路市高等教育基金へ少額ですが同期生の気持を納めさせて頂いた次第です。

翌日同期の鰐淵俊之釧路市長のガイドにより市内主要施設を見学し、大きく変貌した故郷を懐かしみ、最後に思出の校舎に三十年ぶりに対面し、またの出合いを誓い乍ら、釧路駅頭で散会致しました。同期の友情の絆はさらに固く結ばれ、次なる卒業四十周年には再び大集合の計画を立案中であること

を報告致したいと存じます。

「湖陵一七期生」の世代

湖陵一七期 波田地昭彦

「理想は高し阿寒山」と唱い、その学窓を巣立って、早二十五年、魚臭だらけの街並み、フィッシューマンズクラブというハイカラな街並みに変貌、厄年も無事かどうかは別として通過し、夫々の分野で、男盛り、強き母親として頑張っている世代である。現実には、毛髪

のさみしさを気にし、女房からダメ亭主と云われ、又一方、子育てに督促し、井戸端会議で大口を開け、世間からは「オバタリアン」なる名

称を与えられている年代が我々のもう一つの本当の世代である。

昭和三十七年四月、(前年は無試験入学)今年も無試験で入学できるよう神に祈り、碌に、受験勉強もせず、厚かましくも名門湖陵を希望、入試発表で自分の名を見つけた時のうれしさ……。世はまさにバカンス時代・高度成長時代であった。植木等は「おれについてこい」と勝手な事を云い、マンガ本ではおそ松くん「シェー」、オリンピックでウルトラCなる言葉が流行し、やがて「ベ平連」なる耳慣れない名称に怯え、興奮しながら、学生運動へと走った時代でもある。校内では、喫煙問題、服装規定違反、校則等、今風の学校問題のほころりとなった頃でもあった。第一回中幌呂キャンプ、最後ウサギ狩りをしたのも我々の時代であった。

「愛ゆかしき兄弟」の中に、修学旅行で小島君、不治の病いで鬼武君が不帰の人となり、鬼籍に入った事も、我が一七期生の青春時代の心のいたみでもある。

「湖陵に立てる我が学舎」も、ここ一・二年で緑が岡へ移転する。我が子が、来年湖陵を受験するという事を聞き、にんまりする年令になった。四半世紀の経つのは、早いものである。

「あの頃のトレンドイヤー」

湖陵二十七期 吉田 理人

僕達が湖陵生だった頃、スーパ

ースターは吉田拓郎それに井上陽水でした。ユーミンはデビューしたばかり、サザンオールスターズの登場はまだまだ先のことでした。都会的でシャレた音楽より、泥くさいフォークの時代でした。

その影響で、当時の僕達のファッションといえば、長髪にベルボトムのジーンズが標準装備でした。今となつては、アカ抜けないスタイルですが、その頃は不思議とカッコ良く見えたものです。

アイドルブームもありました。天地真理、南沙織、山口百恵、キャンディーズにピンクレディーと続々と目新しいのが現れ、けっこう夢中になりました。

これはある種の熱病ですね。今思えば、本当に自分は子供だったんだと、顔が赤らむ気がします。さて、高校生活も終りに近づき受験勉強に忙しい頃、突然、注目を集めたのが「宇宙戦艦ヤマト」でした。

いいかげん、テレビアニメなんか卒業していた僕達も、リアリティのあるヤマトの動きと、タキオン粒子とか波動エンジンだのという、何となく科学っぽい言葉に興味をそそられ、毎週欠かさず見てしまいました。

当時の流行は、今やすっかり時代遅れで、僕達の湖陵時代の思い出も古色がかつてきたようです。でも、たまにはその時代を思い出し、共に語り合いたいものだと思います。

釧路市幣舞町2番2号

株式会社 吉井写真館

代表取締役 吉井 祥 朔 (湖陵18期)

電話 41-4798番

御卒業・御入学の
晴れの日を
歴史の1ページに…

社会人「一年生」



責任ある社会人

色木 繁

最近、めっきり暖かくなってきて、僕の職場である冷暖房パッチリの機械室でも、Yシャツでなければ息苦しいです。

研修に来ていた頃は、この仕事に関する知識も経験も全くなく、見るもの聞くものすべてが初めてのことで、扱い方なんて全然わかりません。だからなんでもかんでもノートに書きとめて、できるだけ早く覚えようと勉強しました。

僕の仕事はオペレーターといい、三交代制で情報処理業務のオペレーションをします。はじめのうちは先輩を手本として、先輩の責任のもと、先輩に指示されて仕事をしました。もちろんミスが絶えませんが、機械を壊してしまったり、データを消してしまったり、違うデータを入力したり、いろいろなことをして先輩をヒヤヒヤさせました。ぼくが失敗するたびに先輩

の仕事は増えるのに、「誰だっけはじめは失敗する。覚える為にはしょうがない」といつて丁寧に教えてくれました。しかし速さと正確さが問われる仕事だけに、先輩の足を引っばるようなことは、できるだけしないように努力しました。

ある日のこと、担当者がわからなくてうろろうろしていると、係長に「どうした」と聞かれました。「いえ、ちよつと」と言ったら、「仕事にちよつと」という言葉はないんだぞ」と言われました。責任という言葉を感じた一瞬でした。

そんな僕も、この七月から一人で責任ある仕事をまかされ、やっと社員になれた気がします。無知に等しかった僕がここまでこれたのは先輩方のおかげであると感謝しています。でもまだまだ社会人としては一年生、もつと

多くの知識を吸収して、来年来る。後輩の良き先輩になろうと思いま



初めての経験と不安

大野 真澄

社会人一年生として、四月に富士銀行に入行してから、もうすぐ四ヶ月になるうと思っています。

今までの学生生活とは全く違う世界に入り、緊張と不安で一杯のスタートでした。仕事の全てが、何もわからない無の状態からの始まりだったので、ほんの些細なことでも戸惑ってしまい、毎日が反省と勉強の繰り返しです。

この三ヶ月間は、研修期間ということで、東京に一週間程、研修に行かせていただいたり、指導員として先輩が個人指導をして下さり、仕事を覚えていくうえでとても良くしていただきました。

入行してから今までを振り返ってみると、色々な失敗をして先輩達に迷惑をかけてしまったことが一番に思い出されます。その度に先輩達に指導やフォローをしていただき、もう二度と同じ失敗をしないように、気持ちを引き締めて今後の糧となるように努力してい

きたいと思っています。

銀行の仕事は、お金が直接からむ仕事ですから、ちよつとしたミスも許されません。百点満点でなければならぬのです。他の職場でも同じだと思いますが、お給料をいただいて働くということは、大変な事だなあと実感しました。

四月に社会人の仲間入りをして色々な方から気持ちの持ち方などについてお話をしていただきました。その中で、「仕事に一生懸命うちこんでいけば、自然に自分自身が磨かれていく。」という言葉が聞かされて、私は不安で一杯だった気持ちから、少しずつ希望が見えてきました。

同世代だけの世界から、色々な経験を自分でこれた社会の先輩達の中に入って、不安もありましたが今は、自分を仕事の面だけでなく精神的に成長させて、先輩達に一步一步追いついていきたいと思っています。

幸三 ゴルフショップ

新橋大通 5 - 1

代表 宮本 英司

——先輩、後輩よろしく頼みます。湖陵17期——

事務局だより

釧路湖陵同窓会合同幹事会が六月三十日に開かれ、平成元年度の釧路湖陵同窓会は八月十三日（第二日曜日）にキャッスルホテルで開催されることに決定されました。

本年度当番幹事期の七期、十七期二十七期のメンバーが五月から準備を進められ、この日の企画を練って下さいました。後は当日、当番幹事期を中心に役員一同一丸となつて総会が無事成功裡に終了するよう全力投球を致す所存でありますので会員の皆様のご支援を心からお願い申し上げます。さて、先日湖陵高校の前庭に素晴らしい石碑が設置されました。これは前号の『くまざさ』でも触れさせて頂きました。ブラジルに在住しておられる釧中八期の相場先輩が、湖陵高校に対しブラジル産の石を贈るからそれに校歌を刻み学生諸君の永遠の心の励みにしてほしいと願われ、わざわざブラジルから

石を寄贈されたものでございます。この石碑の建設に当っては長内会長始め多くの方々の寄附を頂きこの三月に目出度く落成式を挙行したところでございます。相場先輩におかれましても速いブラジルの空の下でさぞご満足されているものごと拝察致すものでございます。と同時に今後もこの石碑に刻み込まれた校歌に恥じない湖陵高校であり同窓会でなければならぬと思ひまさらながら身の引き締る思いでございます。

先日札幌湖陵会が開かれ長内会長が出席されましたが、その盛大なことにびっくりしましたが実にたのしく、力強く感じたと申しておりました。また他の湖陵会もそれぞれので活発に活動されており、当親会としても非常に心強く思われますし、それらの支部に応援られる親同窓会でなければならぬと思っております。湖陵高校

の改築も正式に決定しいよいよ本年度着工の運びとなりました。来年の秋には新しい校舎が雄大な姿を現わすことでしょうか。いまから非常に楽しみです。したがってこれを機に、当然同窓会館建設の問題が出て参りますが、これは会員各位の絶大なご協力がなくては到底実現出来得る問題ではございません。どうか今後とも温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。会員各位のご健康とご活躍をご祈念申し上げ、事務局からの便りとさせていただきます。

あとがき

新しい「平成」の時代が始まり半年余りが過ぎました。

「内、平らかにして、外、成る」と念じつつ定められました年号ではございますが、残念なことに、内も外も少々ざわめいているような、今日この頃です。

さて、わが母校、釧路湖陵高等

学校も、長年に亘る念願が叶つていよいよ明年秋には、新校舎完成移転というメドが立ち、同窓生一同、待望の同窓会々館の着工となるようです。

私たち同窓生の切なる夢が叶えられるのも間近いようです。関係各位のご苦勞はもちろん、同窓生諸氏各位におかれましても、諸準備に一層拍車のかかることでしょうか。

一方、母校の後輩諸君について野球部をはじめとする各スポーツ文化活動の活躍ぶりが、新聞等でも報道されておりますが、他校の進出に押され気味で今後ますますのご精進が望まれる次第です。

会報「くまざさ」も今号をもって第二十号の発行となりました。お忙しいところ、ご執筆をいただきました各位には、心より厚くお礼申し上げますと共に、今後の皆様方の御発展をご祈念申し上げます。

今後とも尚一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

編集委員

- ・長内 宏
- ・遠藤 隆吉
- ・関口 政司
- ・若原 孝夫
- ・吉井 正

KUSHIRO SOUVENIR PRINTING

知性と工夫で勝負する情報集団



釧路総合印刷株式会社

〒085 釧路市白金町19の2 TEL 0154-23-9201 FAX 0154-23-9205